ViEW2020 ビジョン技術の実利用ワークショップの論文書式

○平成 太郎†， ウィリアム・テイラー‡ （講演者に○を付けてください）  
†: 画像科学技術大学工学部○○学科 （連名者全員の所属をできるだけ詳細にお書きください）

‡: ビジョン技術実利用株式会社 生産技術研究所

taro@image.eng.u-pc.ac.jp　（代表者のE-mailアドレスをお書きください）

概要： この文書は標記ワークショップにおいて発表されるカメラレディ(フルレンクス版)原稿書式です．このファイルを直接編集してお使いください．この部分には200字程度の論文概要を書いてください．

＜キーワード＞ ○○○○，○○○○，○○○○ （キーワードを3語程度お書きください）

図1 ビジョンシステムの構成

図の見本

# 様式

## ページレイアウト

余白は上下22mm，左右19mm．活字サイズは本文10.5ポイント，見出し12ポイント，文献9ポイントとしてください．行間は15ポイントですが適宜変更して結構です．2ページ以降は1行目から2段組にしてください．

表1 実験の仕様

|  |  |
| --- | --- |
| カメラ | AA製モノクロCCD |
| 照明 | ハロゲンランプ |
| 対象物 | 情景写真 |

## ページ数

原稿は2～8ページにて作成ください．また，ページ番号は入れないでください．

# 使用言語

日本語を原則とします．英語の原稿及び発表をお考えの場合には，事務局へご相談ください．

# 図表

# 図表の貼り付け

図表見本を図1及び表1に示します．それそれ，見本のように直接原稿内に貼り付けてください．写真を用いる場合は鮮明なものをお使いください．

# 図表の色

フルレンクス版原稿は電子データで配布されます．図表のカラーについての制限はございません．

# 査読結果

査読者のコメントは，より良い内容で執筆・発表していただくために有用です．是非ご活用ください．

# 提出期限

提出期限をお守りください．投稿される方々の便宜を図るため，原稿提出から印刷入稿までの時間的余裕がありません．原稿提出の遅れた論文は論文集に掲載されませんのでご承知おきください．

# 提出方法

原稿は，原則5MBまでのPDFファイルにて提出してください．詳細については，ViEW2020ホームページ[3]の指示に従ってください．

# 最終原稿

ViEW2020ではフルレンクス原稿を収録した電子版講演論文集と，研究概要を収録した電子版及び印刷版講演概要集を発行します．

以下は採択後の提出となります．

フルレンクス原稿に関しては，研究の詳細な内容についてまとめていただきます．講演申し込み時の講演概要を元に，査読結果を参考にしてご執筆ください．

研究概要に関しては，概要文章，キーワード，図をご提出いただきます．

フルレンクス原稿を収録した電子版講演論文集は，大会Webページにて大会参加者のみへ限定公開します．

研究概要を収録した電子版講演概要集は，同Webページにて一般公開します．

電子版講演論文集，電子版講演概要集ともにその公開日は2020年11月23日（月）とします．すなわち，11月23日（月）が公知日となりますので，ご注意ください．

なお，昨年までは上記とは別にダイジェスト原稿をご提出いただいて印刷版講演概要集としてまとめておりましたが，講演者の負担を考慮してダイジェスト原稿は廃止しました．それに代わり，電子版講演概要集と同内容の印刷版講演概要集を冊子体にて会期中に配布します．

# 参加申込

発表者の方には参加申込をしていただきます．なお，採録論文に対して最低1名以上の参加登録が必要となります．

# 脚注

脚注[[1]](#footnote-1)は適宜お使いください．

# 著者紹介

原稿の最後に著者紹介を入れてください．著者紹介は論文内容に対する責任の明示，内容に関する理解，その後の連絡などにとって有益です．

# 参考文献

適切な参考文献は読者によって非常に有益なものです．論文内容の客観性，分野における位置づけなどを示します．参考文献[1]，[3]はこの例のようにカッコで示します．

必要であれば謝辞を記入してください。

謝辞 本研究は様々な財政的な援助を受けており記して感謝する．

必要であれば補足を記入してください。

補足1 補足には本文に入れると論旨の展開が損なわれる記述，或いは退屈な証明などを入れます．

参考文献

[1] A. Field: Research on Subjects by Some methods, Trans. ISFA, Vol.34, No.2, pp.83-120, 2001.

[2] 課題好一郎：広大なインターネット空間を対象とするFA手法の提案，日本FA学会論文誌, Vol.3, No.4, pp.124-129, 1999.

[3] http://www.tc-iaip.org/view/2020/

[4] 平成太郎：外観検査課題の検討，ビジョン学会論文誌, Vol.6, No.4, pp.98-105, 1996.

平成太郎：各著者の簡単な略歴･研究歴，現在の研究興味などを書いてください．ホームページのURLなども有益な情報です．

ウィリアム･テイラー：Soho Inc. CEO．多くの外観検査の自動化システムの設計･試作を行う．代表システムは，IESS，YTI，KEEなど．最近は自律ロボットビジョンモジュールの開発を進めている．

著者情報を記入してください。

1. ここにこのように脚注の本文が入ります． [↑](#footnote-ref-1)